

編集後記

春の足音を告げるニュースが増えました。

さて、長野論文は明治五年に発足した教部省の教院体制と国民教化運動に関するもので、とくに大分県の中教院の成立については県公文書館の初見史料を用いている。論文の後半に関しても研究者の稀少な領域で長野氏の論稿は光っている。次の甲斐氏の論稿は、町民の方々に配慮した構成となっていて、改めて広瀬淡窓と咸宜園が玖珠の文化に強く影響しているのを認識させられる。

三ツ股氏は外観と構造を示す資料の乏しい府内城天守閣の復元について考察しており、城郭研究の分野に新進の研究者が加わったのを喜ぶたい。野田氏の論考は大分県先哲叢書の評伝『矢野竜溪』に記し得なかった藤田茂吉に関するもの。野田氏は「無論これは藤田茂吉論でも伝でもなく」と断っているが、格調の高い緻密な考証によって藤田茂吉像を温かく描き出している。

史料は、明治四年十一月から明治九年三月まで存続した小倉県庁が出した告諭で、下毛郡と宇佐郡が属していた当時の珍しいものである。